感染対策部門

感染管理認定看護師 小島 康裕

■古川 大輔（医師・院内感染防止対策委員長）
■浦辺 翔子（薬剤師）
■小川 未祥（臨床検査技師）
■小島 康裕（感染管理認定看護師）

部門紹介

感染防止対策室として院長直下の組織であり，感染防止対策チーム（ICT）と抗菌薬適正使用チーム（AST）の体制を編成し，医療関連感染の早期発見，拡大防止に努めている．

活動状況

身感染防止対策委員会

委員会は毎月1回開催され，耐性菌発生状況や外部サーベイランスシステムからのフィードバック，抗菌薬使用状況，院内環境における指摘事項を報告している．
委員会メンバーは病院長，事務長，看護部長に加えて，各部署の責任者が出席している．委員会終了後は議事録が作成され，イントラネットからいつでも閲覧することができるようになっている．
感染管理システムの構築：感染対策の指針，標準予防策，経路別感染対策，職業感染予防等を記載したマニュアルを整備している．マニュアルはイントラネットから誰でも閲覧できるほか，紙媒体の冊子を院内各部署に1冊配置している．院内の感染症の把握のため，電子カルテシステムによって薬剤耐性菌や感染性の高い疾患は一覧で把握できる構造となっている．その他，培養検査にて陽性となった患者情報が閲覧できる他，薬剤耐性菌の耐性パターンを週1回検査部門より提供されている．
毎月の報告では，入院病棟における耐性菌の分離を調査しており，入院後72時間が経過して陽性となった症例は院内感染と判断し，隔離や経路別予防策の指示を該当部署に行っている．耐性菌の発生や伝染性の高い感染症が院内で定められた基準を超えるとクラスターと判断され，臨時の感染防止対策委員会を開催し収束に向けた対応策を検討するようになっている．
近隣の医療機関と定期的に会議を持っており，地域の感染症発生状況や公衆衛生向上に向けた研修会を運営・開催している．また，神奈川県衛生研究所の感染症週報を活用し，季節性の感染症の流行を早期に検知し，院内での対策に役立てている．

サーベイランスシステム

厚生労働省のサーベイランス（JANIS）および抗菌薬サーベイランス（J-siphe）に加入しており，定期的なフィードバックを院内に還元している．

現場の対応

全患者に標準予防策が実施できるよう，各部署の廊下など取り出しやすい場所に個人防護具が設置されている．併せて手指消毒剤も近傍に設置されており，誰でも使用できる状態となっている．手指衛生を行う場合，手指消毒剤や手洗い場には手順を載せたポスターが掲示されており，手順を確認しながら手指衛生ができる．標準予防策に加えて経路別予防策が必要な場合は，症例に応じて個室隔離や大部屋でのコホート管理を行い，入室前に個人防護具が着用できるようにピクトグラムの掲示を行い，臨時の装着エリアを設定して水平感染の予防を行っている．業務によって生じた感染性廃棄物は鋭利なもの，非鋭利なものでそれぞれ分けられ専用の廃棄容器に破棄される．感染性廃棄物の分別は一覧表が掲示されており，誰でも分別を行うことができる．感染性の汚染が生じたリネンは通常の使用済リネンと分けられ，感染性リネン専用のランドリーカートに収納した上で業者が回収している．

展望

サーベイランスの拡充

2026年度より血流感染サーベイランスを開始予定.
デバイス使用比・感染率の相関,アンチバイオグラムをはじめとした陽性例の耐性パターンの把握,臨床現場での挿入,管理,抜去の一連に対し感染対策手技のバンドル導入を実施予定.

手指衛生直接観察による積極的な介入

現在は手指消毒剤使用量のサーベイランスを行っているが,更なる遵守率向上に向けて,直接観察法を用いたフィードバックの強化,臨床場面での手指衛生の知識向上を狙った活動を予定.

学術業績

小島康裕:ベンチマーク指標としてのMRSAを用いた2年目病院の感染対策評価.第40回日本環境感染学会,横浜,2025,7.

依頼講演

・未就学児の保護者対象の感染対策講義(大磯町役場)
・季節性感染症の概要と感染対策 (大磯町敬老会)